

第 35 期
事業報告並びに決算報告書

(2024 年度)

自 2024 年 4 月 1 日
至 2025 年 3 月 31 日

公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団

目次

【1】 第 35 期（2024 年 4 月～2025 年 3 月度）事業報告

1 概要	1
2 活動内容	
(1) 第 33 回（2024 年度）ヘルスリサーチ研究助成事業	1
(2) 第 31 回（2024 年度）ヘルスリサーチフォーラム及び 2024 年度研究助成贈呈式	2
(3) 財団活動の実績と課題の把握	6
(4) 新しい広報活動の展開	6
(5) 寄附金募集活動	6
3 運営に関する事項	
(1) 評議員・理事・監事・選考委員及びその他委員に関する事項	7
(2) 評議員会・理事会・監査会・選考委員会に関する事項	9
(3) オフィスに関する事項	11
(4) 登記・届出に関する事項	11
4 附属明細書	11

【2】 第 35 期（2024 年 4 月～2025 年 3 月度）決算

財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書）及び財産目録	12
1 貸借対照表	13
2 正味財産増減計算書	14
3 正味財産増減計算書内訳表	16
4 財務諸表に関する注記	18
5 附属明細書	20
6 財産目録	21

【3】 監査報告書 謄本 22

【資料】

- ・第 33 回（2024 年度）研究助成受賞者一覧

【1】第 35 期（2024 年 4 月～2025 年 3 月度）事業報告

1 概要

当財団は、ヘルスリサーチの振興を目的として、ヘルスリサーチ研究者への助成事業を中心とした活動を行っている。

第 35 期（2024 年度）の事業計画・収支予算は、2024 年 3 月 27 日に開催された「第 44 回理事会」の承認を得て実施された。事業計画は、以下のとおりであった。

- (1) 第 33 回（2024 年度）ヘルスリサーチ研究助成事業
- (2) 第 31 回（2024 年度）ヘルスリサーチフォーラム及び 2024 年度研究助成贈呈式
- (3) 財団活動の実績と課題の把握
- (4) 新しい広報活動の展開

上記のうち、（１）及び（２）については、予定通り実施することができた。一方、（３）及び（４）については、当期で完了することができず、来期に引き継ぎ実施することとなった。

第 35 期（2024 年度）の事業実施に伴う収支（正味財産増減）決算の概要は、次のとおりであった。

経常収益は 9,566 万円であった。内訳は、基本財産からの運用収益 4,615 万円、出捐企業からの指定寄附金総額 4,800 万円（過年度未消費分 1,300 万円を含む）などであった。「事業費」に関しては最重点事業である研究助成事業費は、5,063 万円（うち支払助成金 4,663 万円）であった。その他、ヘルスリサーチフォーラム関連費 1,720 万円（うち、会場費 82 万円、機材費 272 万円、運営人件費 479 万円）、ホームページ関連費 73 万円等となり、「事業費合計」は、総額 8,503 万円となった。管理費は、総額 1,640 万円となり、第 35 期の事業費と管理費の合計である「経常費用計」は、1 億 143 万円であった。

指定正味財産期末残高は、22 億 7,071 万円で、一般正味財産期末残高については 5 億 6,532 万円となり、正味財産期末残高の総額は、28 億 3,602 万円となった。

期末基本財産は、普通預金 1 億 2,941 万円、定期預金 1 億 2,784 万円、有価証券 23 億 9,158 万円で、合計 26 億 4,884 万円となった。

2 活動内容

(1) 第 33 回（2024 年度）ヘルスリサーチ研究助成事業

国際共同研究は、1 件当たり 300 万円以内（8 件程度）、国内共同研究（年齢制限なし）は、1 件当たり 130 万円以内（14 件程度）、国内共同研究（満 39 歳以下）は、1 件当たり 100 万円以内（14 件程度）と、前年度と同規模の助成計画にて実施した。応募総数は、対前年比で約 1 割減の 100 件であった。

選考の結果、国際共同研究 10 件、国内共同研究（年齢制限なし）12 件、国内共同研究（満 39 歳以下）9 件、合計 31 件（対前年比 20%減）が採択された。各カテゴリーの全助成案件については別添資料のとおりである。

< 応募状況並びに採択結果 >

() : 前年度、金額 : 万円

	応募件数	採択件数	助成金額
国際共同研究	26 (26)	10 (8)	2,663 (2,111)
国内共同研究 (年齢制限なし)	43 (54)	12 (16)	1,185 (1,676)
国内共同研究 (満 39 歳以下)	<u>31 (31)</u>	<u>9 (16)</u>	<u>815 (1,391)</u>
合計	<u>100 (111)</u>	<u>31 (40)</u>	<u>4,663 (5,178)</u>

< 公募状況 >

2024年4月21日 ～ 6月30日 公募期間

財団ホームページにて公募案内を掲載するとともに、リーフレットを全国の大学各学部（医学部、薬学部、歯学部、保健学部、社会福祉学部、看護学部、経済学部、法学部等）及び学会、研究機関、報道機関、厚生労働省、過年度の助成者等、約6,000件送付。また、一部学会の機関誌等に公募案内広告を掲載。医療経済研究機構機関誌にて公募案内広告を無料掲載（4月号～6月号）

< 選考日程 >

2024年 7月24日	選考委員長による予備選考
8月10日 ～ 9月14日	選考委員 書面審査
9月14日	選考委員 選考結果回答期限
9月24日	第85回選考委員会－書類選考による助成案件の決定
10月23日	選考委員長より理事長への助成案件の選考・決定の答申
10月23日	理事長が全理事に対して選考結果を通知 (定款第46条報告の省略)
10月28日	応募者本人への結果通知(書面)
12月 7日	第33回（2024年度）研究助成贈呈式開催
12月 9日～	助成金振込み

(2) 第 31 回（2024 年度）ヘルスリサーチフォーラム及び 2024 年度研究助成贈呈式

本年度は、「AI の活用とヘルスリサーチ」をテーマとし、旧主務官庁である厚生労働省の後援を得るとともに、一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構の協賛を得て開催した。今期は、すべてのプログラムを 1 日で実施する従来の形式にて開催した。

研究助成贈呈式では、2024 年度受賞者 31 名中、代理出席を含む 30 名が来場し、来場者には、中村理事長より、贈呈状が授与された。記念撮影のあと、各受賞者からは助成対象となった研究内容のショートプレゼンテーションが行われ、山崎選考委員長より 3 つのカテゴリーごとに助成研究に関する講評が行われた。

本年度より、従来ヘルスリサーチフォーラムにて開催していた基調講演を再開することとし、本年度フォーラムテーマに則した外部有識者による基調講演を行い、ヘルスリサーチの重要性について

て振興を図った。

2024 年度のヘルスリサーチフォーラムでは、2022 年度に助成した国際共同研究及び国内共同研究 27 演題のうち、23 演題と、研究を継続実施されていた 2019～2021 年度の助成研究 4 演題の他、本年度の一般演題公募から選考を経て採択された 3 演題の合計 30 演題の研究発表が行われた。

フォーラム終了後には、「情報交換会」を開催し、ヘルスリサーチを通じた受賞者と発表者、また来場者との貴重なコミュニケーションの場となった。

< 開催概要 >

日 時 : 2024年12月7日（土） 9時15分 ～ 19時30分

会 場 : 千代田放送会館（東京都千代田区紀尾井町）

オンライン : MS Teams Meeting（発表者、視聴者）*Live配信（事前登録者のみ）

テ ー マ : 「AIの活用とヘルスリサーチ」

後 援 : 厚生労働省

協 賛 : 一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構

参 加 者 : 研究成果発表者、研究助成受賞者、ヘルスリサーチ研究者、関係官庁、一般参加者、出捐会社役員、財団役員等、約80名。

プログラム :

1. 開会挨拶 : 中村 安秀 ファイザーヘルスリサーチ振興財団 理事長
2. 来賓挨拶 : 原田 明久 氏（ファイザー株式会社 代表取締役社長）
3. 第33回（2024年度）研究助成選考経過・結果発表 :
山崎 力 ファイザーヘルスリサーチ振興財団 選考委員長、理事
4. 第33回（2024年度）研究助成贈呈式 : 中村 安秀 理事長
5. 第33回（2024年度）研究助成受賞者発表 : 山崎 力 選考委員長（講評）

<< 国際共同研究 >>

- ① 未成年の血圧に関連する遺伝・環境要因の探索
- ② 妊娠糖尿病患者とその子における長期的な健康アウトカムの検討
- ③ 日米におけるDoctor of Nursing Practice修了生の患者アウトカムへの影響に関する研究
- ④ 保健医療システムの質の住民調査に関する国際共同研究：日本と世界の多国間比較研究
- ⑤ LIBRE Profile-SFの日本語版の開発と信頼性および妥当性に関する臨床研究
- ⑥ 将来のwell-beingを見据えた誕生前からのライフコース・アプローチに関する国際共同研究
- ⑦ COVID-19パンデミック前・中・後における小児への抗菌薬処方パターンの評価：日本とノルウェーの国際比較
- ⑧ 海外の医療系学生・医療者を対象とする日本の在宅ケアの仮想現実教育プログラムの開発

- ⑨ 社交不安症の認知療法を効率化する次世代型WEBプログラムの効果検証と国際間比較
 - ⑩ 年代別腸内細菌叢の国際比較による生活習慣病・免疫能バイオマーカーの探索
- 以上10題

《国内共同研究-年齢制限なし》

- ① 全身における口腔細菌の存在・分布と病態との関連の解明
 - ② 生成AIを用いたメンタルヘルスケアシステムの開発の試み
 - ③ 炎症性腸疾患患者への遠隔看護教育プログラムの開発
 - ④ わが国における虚血性心疾患の予防推進施策の達成度別に見た医療経済効果の差異予測
 - ⑤ 簡易型オンライン間欠的断食プログラムの開発および効果検証：ランダム化比較試験
 - ⑥ 急性期病院における特定行為看護師の活用推進モデルの構築
 - ⑦ IoT 技術との融合による新興感染症への立体的社会介入スキームのレジリエンス設計
 - ⑧ 働き方改革時代の救急・集中治療における薬剤師とのタスクシェアの推進
 - ⑨ Quality Indicatorを用いた精神科医療の質向上プログラムの開発と効果研究
 - ⑩ コロナ禍の最前線にいる子どものコロナ禍後遺症と発達の困難・リスク
 - ⑪ 若年性認知症の方の時宜を得た適切な支援システムの構築—トピック分析を用いて
 - ⑫ 多角的解析による乳幼児の予期せぬ突然死（SUDI）の原因究明
- 以上12題

《国内共同研究-満39歳以下》

- ① 小児がん診療における抗がん剤曝露の実態評価と改善法の検討
 - ② 患者の視点を取り入れた睡眠薬の休薬アドヒアランスに向けた質的研究
 - ③ 臨床情報とバイオマーカーから構築した新規機械学習モデルによる癒着胎盤のハイリスク群抽出
 - ④ リアルワールドデータを用いた我が国のオンライン診療の実態とアウトカムに関する研究
 - ⑤ 高度先進医療を提供する大学病院におけるリエゾン精神医学の動向と展望
 - ⑥ 悪性脳腫瘍患者のACPサポートに向けた意思決定支援アプリの開発と評価
 - ⑦ 授乳による血糖変動と主観的疲労感の関連における検討
 - ⑧ COVID-19後遺症の患者報告式簡易尺度の開発と検証
 - ⑨ コレステロール低下療法における患者と医師双方の選好に関する調査研究
- 以上9題

6. 基調講演 『家でがんに困った時の対話型生成AI』

東京大学先端科学技術研究センター がん・代謝プロジェクトリーダー／
 東京大学 名誉教授 児玉 龍彦 氏
 司会・進行 中村理事長

7. 研究成果発表

【セッション1】 - ホールセッション 座長： 甲斐 克則 財団選考委員、評議員
≪2024年度一般演題 3題≫

- ① 画像診断支援AIの利活用を巡る医師の責任のあり方に関する検討
- ② 自然言語処理技術を用いた診療記録活用によるICU診療の業務効率化への試み
- ③ 企業風土改善と生産性を向上する共同脱出型作業ツールの日本導入

【セッション2】 - ホールセッション 座長： 矢作 恒雄 財団選考委員
≪2022年度助成研究 3題≫

- ① 乳がんサバイバーにおけるがん以外の健康アウトカムとヘルスサービスの評価
- ② 自然言語処理による乳がん患者の多モダリティ病歴テキストの自動結合データベース化
- ③ 深層学習を用いた生殖補助医療における生産率予測モデルの構築

【セッション3】 - ホールセッション 座長： 坂巻 弘之 財団選考委員、理事
≪2022年度助成研究 4題≫

- ① コロナ禍における保育士の身体および精神的健康に関する大規模な疫学調査
- ② 生後早期の極早産児に対する「複合的な抗菌薬適正使用プログラム」の普及効果に関する多施設共同前向き試験
- ③ オープンラベル抗がん剤臨床試験におけるアウトカム評価に伴うバイアス:メタ疫学研究
- ④ 小児外科医療の集約化の必要性の検討(Learning curve, Volume-Outcome関係の評価)

【セッション4】 - ポスターセッション 座長： 姉川 知史 財団選考委員、評議員
≪2019年度助成研究 1題≫

- ① 開発国における持続可能な必須医療サービスの普及と質の向上に関する国際共同研究

≪2022年度助成研究 3題≫

- ② 我が国における高齢者の疾患の推移、パターン分析
- ③ リスク調整済標準化質指標を用いた病院医療の質を評価する方法についての研究
- ④ 新規医療技術が高齢者の健康寿命及び医療費に与える影響の分析

【セッション5】 - ポスターセッション 座長： 川越 厚 財団選考委員
≪2022年度助成研究 4題≫

- ① 医療におけるセクシュアリティに関するダイバーシティ教育の推進—医学部附属病院で組織的な研修プログラムの開発とその効果測定
- ② 認知症共生社会にむけた医療と仏教社会資源の協働可能性の基礎研究
- ③ エンドオブライフ・ケアに対する心不全患者の意向を尊重するためのシステム構築
- ④ 独居・夫婦2人暮らし、または家族との同居と「望ましい死の達成」の関連

【セッション6】 - ポスターセッション 座長： 梶井 英治 財団選考委員
≪2020年度助成研究 1題≫

- ① 神経難病に対する遠隔診療：地方での導入の問題点に関する研究

≪2021年度助成研究 1題≫

- ② ストレッチャビリティを有するヘルスケア用ウェアラブルシステムの研究

≪2022年度助成研究 2題≫

- ③ サルコペニア評価のための体重負荷による下肢筋肉の調査
- ④ 社会変動で増悪するてんかん発作への事前予測と包括的支援の提案

【セッション7】 - ポスターセッション 座長： 平野 かよ子 財団選考委員、評議員

≪2021年度助成研究 1題≫

- ① 親子相互交流療法(PCIT)の治療プロセスと中断要因の解明

≪2022年度助成研究 3題≫

- ② 母子生活支援施設におけるインレジデンス・グループ親子相互交流療法（G-PCIT）
- ③ 非アルコール性脂肪肝疾患患者における認知行動療法によるライフスタイル変容効果の検証
- ④ 脳卒中片麻痺上肢で行う生活動作に対する目標設定支援システム(e-ASUHS)の開発

【セッション8】 - ポスターセッション 座長： 中村 安秀 財団理事長

≪2022年度助成研究 4題≫

- ① 精神科病院におけるケアファームの効果
- ② 社会的ひきこもりの支援者スキル評価手法の開発
- ③ 若年発症の脳卒中患者における育児に関する問題点の抽出
- ④ 追加新生児マススクリーニングにおける保健医療の質を高めるための研究

8. 情報交換会

以上

(3) 財団活動の実績と課題の把握

過去 30 年間の財団活動の実績を可視化するとともに、現状分析を行い新たな財団活動の指針とすべく 2023 年度に計画したものであるが、必要な財団運営活動を優先的に実施した結果、本年度での完了は困難となったため、来期も引き続き継続実施し、レポート作成まで進める予定である。

(4) 新しい広報活動の展開

上記（3）と同様の事由により、本計画については、30 周年記念誌の刊行が遅れたため、記念誌の刊行を優先的に実施したため、本計画については先送りし、2025 年度に継続実施して取り組むこととした。記念誌が完成し次第、着手の予定である。

(5) 寄附金募集活動

出捐企業であるファイザー株式会社からの指定寄附金 3,500 万円及び個人から 2 万円の寄附金があった。

3 運営に関する事項

(1) 評議員・理事・監事・選考委員及びその他委員に関する事項（2025 年 3 月 31 日現在）

< 評議員 >

役 職	氏 名	所 属
評議員	姉川 知史	名古屋商科大学 教授／慶應義塾大学 名誉教授
評議員	梅田 一郎	一般社団法人新時代戦略研究所 理事長
評議員	甲斐 克則	早稲田大学大学院法務研究科 教授
評議員	河北 博文	社会医療法人河北医療財団 理事長
評議員	黒川 達夫	一般社団法人日本バイオシミラー協議会 理事長
評議員	島内 憲夫	順天堂大学 名誉教授／広島国際大学 客員教授
評議員	西村 周三	京都先端科学大学 経済経営学部経済学科 教授
評議員	平井 愛山	千葉県循環器病センター臨床研修アドバイザー／ 日本慢性疾患重症化予防学会 代表理事
評議員	平野 かよ子	宮崎県立看護大学 名誉教授

以上 9 名。

< 理事・監事 >

役 職	氏 名	所 属
理事長	中村 安秀	公益財団法人日本 WHO 協会 理事長
常務理事	鈴木 修	税理士／高崎商科大学商学部・大学院商学研究科 教授／ 公益財団法人公益法人協会 専門委員・主任研究員
理事	伊藤 由希子	津田塾大学 総合政策学部総合政策学科 教授
理事	坂巻 弘之	神奈川県立保健福祉大学 シニアフェロー／一般社団法人 医薬 政策企画 P-Cubed 代表理事
理事	佐藤 敏信	久留米大学 特命教授（医療政策担当）
理事	辻 篤子	科学ジャーナリスト／中部大学 学術推進機構 特任教授
理事	橋爪 真弘	東京大学大学院医学系研究科 国際保健政策学 教授
理事	松岡 悦子	奈良女子大学 名誉教授
理事	山崎 力	国際医療福祉大学大学院 社会医学研究分野 教授
監事	宇都宮 啓	公益財団法人日本建築衛生管理教育センター 理事長／ 慶應義塾大学 客員教授
監事	山田 章雄	山田章雄公認会計士事務所／公認会計士

以上、理事 9 名、監事 2 名。

<選考委員>

役 職	氏 名	所 属
委員長	山崎 力	国際医療福祉大学大学院 社会医学研究分野 教授
委員	姉川 知史	名古屋商科大学 教授／慶應義塾大学 名誉教授
委員	大木 幸子	杏林大学保健学部看護学科 教授
委員	甲斐 克則	早稲田大学大学院法務研究科 教授
委員	梶井 英治	茨城県西部メディカルセンター 病院長
委員	川越 厚	在宅ホスピス研究所パリアン 代表／森の診療所 医師
委員	坂巻 弘之	神奈川県立保健福祉大学 シニアフェロー／一般社団法人 医薬政策企画 P-Cubed 代表理事
委員	平野 かよ子	宮崎県立看護大学 名誉教授
委員	眞鍋 馨	厚生労働省大臣官房 厚生科学課 課長
委員	矢作 恒雄	慶應義塾大学 名誉教授

以上、10 名。

<ヘルスリサーチワークショップ幹事・世話人>

役 職	氏 名	所 属
代表幹事	山崎 元靖	神奈川県健康医療局 医務担当部長
幹事	永森 志織	NPO 法人難病支援ネット・ジャパン 理事
幹事	山岡 淳	神戸大学経済学研究科 准教授
世話人	池田 誠	Vice President, SMP Laboratories Japan Co., Ltd.
世話人	中山 俊	アンター株式会社 代表取締役／東京科学大学 客員准教授
世話人	花木 奈央	大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学 特任助教
世話人	金城 謙太郎	帝京大学大学院公衆衛生学研究科 特任教授／ 金城医院 院長
世話人	小島 健一	鳥飼総合法律事務所 パートナー弁護士
世話人	小林 美穂子	東邦大学看護学部 助教

以上 9 名。

(2) 評議員会・理事会・監査会・選考委員会に関する事項

[1] 評議員会

第 17 回 2024 年 6 月 28 日（金）14 時 00 分～15 時 40 分
オンライン会議（中継会場：京王プラザホテル本館 4 階『花の間 D』会議室）
第 1 号議案 第 34 期（2023 年度）決算書類承認の件
第 2 号議案 理事選任の件
報告事項 （1）第 34 期（2023 年度）事業報告
（2）その他
以上 2 案が、原案のとおり承認可決された。

[2] 理事会

- ① 第 45 回 2024 年 6 月 18 日（火）16 時 00 分～18 時 00 分
ハイブリッド会議（中継会場：京王プラザホテル本館 43 階『ムーンライト』会議室）
第 1 号議案 第 34 期（2023 年度）事業報告の件
第 2 号議案 第 34 期（2023 年度）財務諸表の件
第 3 号議案 新理事候補選定の件
第 4 号議案 定時評議員会の開催日時、場所、目的である事項等の件
報告事項 （1）代表理事職務執行
（2）常務理事職務執行
以上 4 案が、原案のとおり承認可決された。
- ② 第 46 回（臨時）2024 年 6 月 28 日（金）16 時 00 分～16 時 30 分
ハイブリッド会議（中継会場：京王プラザホテル本館 4 階『花の間 D』会議室）
「代表理事および業務執行理事の選任の件」により、代表理事（理事長）に、
中村 安秀 氏、業務執行理事（常務理事）に、鈴木 修 氏が選出された。
- ③ 第 47 回（臨時）2024 年 11 月 6 日（水）17 時 00 分～18 時 30 分
オンライン会議（中継会場：ファイザー株式会社 18 階 E07 会議室）
今般の理事改選を受け、代表理事及び常務理事から財団の事業活動の現状と公益認定
法の概要等について、新たに就任された理事への説明の機会を設けた。
- ④ 第 48 回（臨時）2025 年 2 月 1 日（土）～ 6 日（木）
決議の省略にて行う
「新規債券購入の件」で、7 銘柄 10 億円分の債券の購入が承認可決された。
- ⑤ 第 49 回 2025 年 3 月 25 日（火）13 時 00 分～15 時 00 分
ハイブリッド会議（中継会場：京王プラザホテル本館 42 階『津久井』会議室）
第 1 号議案 第 36 期（2025 年度）事業計画の件
第 2 号議案 第 36 期（2025 年度）収支予算、資金調達及び設備投資の見込みの件
第 3 号議案 役員賠償責任保険継続の件

- 報告事項 (1) 代表理事職務執行状況
 (2) 常務理事職務執行状況
 (3) 選考委員改選の件
- その他 検討事項
 1. 公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団と出捐企業との関係性
 2. 研究助成者の多様性・国際性に関する議論
 3. ファイザーヘルスリサーチ振興財団の脆弱な事務局体制
- 以上 3 案が、原案どおり承認可決された。
その他、検討事項として、上記 3 項目について、理事、監事にて自由討論が行われた。

[3] 監査会

- 第 34 期監事監査 2024 年 5 月 24 日（金）14 時 00 分～16 時 00 分
会場：ファイザー株式会社 18 階『18E02』会議室）
(1) 事前に送られた「第 34 期事業報告並びに決算報告書（案）」について監事より指摘事項の説明
(2) 監事からの質疑と常務理事、事務局長による応答
(3) 監事からの指摘事項の修正
以上 3 項目が実施され、後日、監事による監査報告書への捺印が行われた。

[4] 選考委員会

- ① 第 85 回 2024 年 9 月 24 日（火）13 時 00 分～16 時 00 分
ハイブリッド会議（中継会場：京王プラザホテル南館 4 階『かつら』）
第 1 号議案 第 33 回（2024 年度）研究助成案件の選考に関する件
第 2 号議案 第 33 回（2024 年度）一般演題 応募者選考に関する件
第 3 号議案 第 31 回（2024 年度）ヘルスリサーチフォーラム・プログラムに関する件
その他報告等
事前の書面審査に基づき、本選考が行われ、本年度の研究助成候補案件並びに一般演題採択案件が決定された。また、第 31 回（2024 年度）ヘルスリサーチフォーラムのプログラム概要が決議された。
- ② 第 86 回 2025 年 2 月 26 日（水）15 時 00 分～17 時 00 分
ハイブリッド会議（中継会場：京王プラザホテル 本館 4 階『かえで』）
第 1 号議案 第 34 回（2025 年度）研究助成公募内容・選考方法等の件
第 2 号議案 第 32 回（2025 年度）ヘルスリサーチフォーラムの件
第 1 号議案では、来期（2025 年度）のヘルスリサーチ研究助成の概要並びに選考方法が検討・決議された。議論の過程で、国際共同研究の枠組みと応募者の要件に関し、新たな意見が提案されたが、財団助成事業の大枠を変更することとなるため、理事会を含め、更なる議論、検討を重ねることとなった。なお、本年度の募集要項の変更点については、改めて選考委員会に諮ったうえで最終案とすることとなった。また、第 2 号議案では、2025 年度ヘルスリサーチフォーラムの概要が決議され、本年度テーマとして、「分断をつなぐヘルスリサーチ」が仮決定されたが、演者などについては中村理事長が取りまとめ、改めて選考委員会に諮ることとなった。

- ③ 第 87 回（臨時）2025 年 3 月 27 日（木）13 時 00 分～15 時 00 分
オンライン会議（中継会場：ファイザーヘルスリサーチ振興財団 事務局）
選考委員長の提案により、応募書類修正案並びにヘルスリサーチフォーラムテーマの検討に際し、改めて選考委員会が招集された。ヘルスリサーチフォーラムテーマについては、前回会議で提案内容が取り上げられなかった別テーマとともに、詳細に検討され、最終的に「分断をつなぐヘルスリサーチ」にて決議された。また、応募書類の修正箇所についても決議された。

（3）オフィスに関する事項（2025 年 3 月 31 日現在）

ファイザー株式会社本社ビル（渋谷区代々木 3-22-7 新宿文化クイントビル）21 階 にて、36 平方メートルを賃借している。必要経費以外は全額ファイザー株式会社が負担している。

（4）登記・届出に関する事項

- [1] 2024年6月30日に、第34期（2023年4月～2024年3月度）事業報告・貸借対照表・正味財産増減計算書・財産目録等を内閣府(内閣総理大臣)にオンラインにて提出した。
- [2] 第31回（2024年度）ヘルスリサーチフォーラム開催に際し、2024年11月13日に厚生労働省後援の名義使用を申請し、2024年11月29日に許可を得た。
- [3] 2025年2月19日午前10時～午後4時30分、内閣府公益認定等委員会事務局政策企画調査官3名による立ち入り検査が行われた。理事長並びに常務理事及び事務局長が対応した。検査の結果、法令違反など重大な指摘はなかったものの、備えおき書類、事務局体制の整備について指摘があった。
- [4] 2025年3月29日に、第36期（2025年度）事業計画、収支予算書を内閣府（内閣総理大臣）にオンラインにて提出した。

4 附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので、附属明細書は作成しない。

以上